

あなたのカルマ鑑定書
～運命の人と出会えないのは？
人生の旅とソウルメイトの深い関わり～

Ms U□□□

りさん、こんにちは。

さて前世が存在する理由とは何だと思われませんか？

もしかしたら「魂の向上」という言葉を聞いたことがあるかもしれません。

その言葉の意味自体は間違っていないです。

ただ、言葉としてももう少し正確に言うと、私たちが魂レベルで今生や

過去世のすべてが夢幻であることを「見抜く」ためと言えます。

夢幻の中なら私たちはそこで繰り広げられる出来事に対して

憎しみ、怒り、悲しみ、罪悪感などで苦しむ必要はありません。

けれども、今まさにりさんの人生で多くの痛みが繰り広げられています。

だからこそ「見抜く」能力を向上させる必要があるのです。

それが「魂の向上」という言葉として表現することができると思います。

決して「ダメな私(の魂)」を「素晴らしい私(の魂)」にすることではなく、

りさんご自身の本質に戻っていくことが魂から求められていることです。

この世界は夢幻ですが、だからといって適当に扱うべきものではありません。

なぜならこの世界は、すべての魂の意志で選択した結果の世界だからです。

ですので「見抜く」ために真剣に向き合わなければ、

「見抜く」まで夢幻の世界に縛られるループが繰り返されていきます。

過去世は夢幻であることを見抜く重要なメッセージとしての役割もあるのです。

ではこれから、Uさんの過去世への旅に入っていきますよ。

過去世のリーディングはタロットの力も借りています。

展開されたカードは最後のページに載せておきますね。

40代後半くらいの男性、身長はすりと高く、痩せ型の筋肉質です。

周囲の状況から現在のロシアの辺りで、20世紀初頭ではないでしょうか。

現代よりも古い雰囲気はありますが、近代の様相を呈しています。

彼は茶系のズボンにTシャツのようなものを着て、少し腕をまくりあげており、

ナイフのような刃物を機械を使って研磨しています。

工場のような室内で、彼の周りには同じような格好をした多くの男性がいます。

その方々に交じって、軍服を着た男性も数人います。

工場が彼の仕事場のようです。職人のような立ち位置で仕事をしています。

ただ、あまりその仕事を楽しくそうにはしていない、不満が顔に表れています。

そこに少し彼の歴史があるようですので、探っていくことにします。

職人のような立ち位置でいたのは、彼の家系からくるもののようです。

彼の家が日本という鍛冶屋のような家柄のようです。

ですので、それほど裕福な家ではなく、その仕事が家の中心であり、

彼は小さいころから家のお手伝いをしていました。自ら率先していたというよりも

親に手伝うことを言われていたという感じです。

彼の子ども時代は、戦闘機が閑雑されるようになった時代であり、

彼はそれらの戦闘機にとっても憧れていました。

「大人になったらパイロットになりたい！！」そんな無邪気な夢を持っていました。

けれども、大きくなるにつれて、物事の分別がついてきます。

自分の家はそういう仕事ができる家柄ではないことに気がついていきます。

家の商売をやること、それが彼が望まれている人生だったのです。

なので、彼のパイロットになるという夢は夢のままになります。

それでも、戦闘機を見るだけでもいいからという思いだったようです。

軍事施設の工場のようなところで働くことを選びました。

家系の技術があつたので、技術職のような形で仕事に携わることになります。

入職して最初の頃は仕事を一生懸命にしていました。

もしかしたら何かの拍子に戦闘機に触る機会に恵まれるかもしれない、

そういう仕事に就けるかもしれない、という思いもあつたようです。

纯粹で一生懸命に努力する青年だったのです。

しかしながら、何年か経つと現実がみえてきます。

比喩的に言うと、鍛冶屋は鍛冶屋でしかないという感じでしょうか。

そう思うとなんだか色々なことが虚しく色あせている感じを覚えていました。

そういう思いは仕事にも多分に影響します。

仕事は生活の手段だけになり、なんとなく怠惰に過ぎている状態です。

技術的にはとても優れた職人なのです。天性の才能のようなものもあります。

なので、その現場の責任者として組織の上層部からも信頼されています。

けれども、この変化がない生活は、彼の好奇心を萎えさせて、楽しいことや

刺激的なこともなく、ただただ時間だけが流れる状態になっています。

仕事の後は同僚とお酒を飲んだり、休みの日は子どもと釣りにいったりと、

それなりに過ごしていますが、「つまらない」という思いは常に燻っていたようです。

結婚はしていたようですが、すごくぼんやりとしています。

彼の中で結婚生活には、意識をむけていなかったようなのです。

彼は元々アクティブな人間で、色々なことに挑戦することが大好きでした。

自由で闊達で外交的な性質をもっている魂でしたが、生まれた家も、そして、

その後の人生もその性質とはあまり合わないものでした。

ここで彼の意識が話をしてくれたことなのですが、自分の魂と合わない状況は、

深いレベルでの合意だったのだということです。

色々な意味で忍耐や我慢、諦めることが必要だったということなのです。

そんな仕事の中、ちょっとした不注意で怪我をしまいます。

それほど大きな怪我ではなかったのですが、動き手が使えず仕事の内容に

しばらくの間、制限が加わりました。

幸いなことに責任者であった彼は、若手の育成や技術の指導などで、現場での仕事を絶対にしなければいけないということではなかったので、仕事を休む必要も、辞める必要もなかったのです。

少し現場を離れてみて、大局的に仕事をみる時間が出てくると、環境や人々について色々なことに気がつきます。

良質な部品が作るために必要なことや、若手への接し方もそれぞれに合ったものがあり、様々な個性が展開されていることに気がつくのです。

自分が現場にいたときは、自分自身の重要性は感じられなかったことが、離れた視点をもつことで、物事に不要なプロセスなんてものはなく、すべて大切な一部なんだという思いが湧いてくるようになったのです。

そうすると、早く怪我を治して、現場にたずさわりたいという気持ちになりました。

仕事の中でやってみたいことも思い描くようになりました。

怪我が治り、現場に復帰すると前よりもずっと楽しい気持ちでいることに気がつきます。とても新鮮な気分です。

昔の意欲が戻ったようになり、意欲的に仕事をしはじめたことがより認められ、定年後も組織から働くことを望まれたので、しばらくの間勤めます。

子どもも大きくなって独立しました。傍らには縫物をする奥さんがいて、のんびりとソファに座りながら、外を眺めています。

次の二つ目の過去世はソウルメイトと過ごした過去世についてみてみます。

ここでは、今生の課題が最初の過去世と関わっているので、

最初の過去についても触れていきます。

今生のりさんの人生の半分(つまり45歳前後)くらいまでは、

最初の過去世の影響を受け継いでいます。

りさんが満たされる仕事に一生懸命に取り組んでいたのは、

彼のやりたいことをしたかったエネルギーによるところが大きいです。

彼は最終的には仕事に誇りを持ち、有意義な時間を過ごしていますが、

パイロットになれなかったので、やりたいことをやっていこうという思いと

失望して時間をロスしていたこともあったので、もっと好奇心をもって向き合いたい

という思いの両方を昇華したいという望みがあったようです。

若い頃、結婚願望が少なかったのは、それよりも優先事項があったからです。

「う～～～ん！結構やり切ったぞ！！」という魂的な合図とともに、

結婚をしたいというソワソワとした不安が芽生え始めました。

でも「はて、どうしたらいいの、、、？」という思いは浮かびます。

これには少しカルマも絡んでいるようです。

そのカルマとは、やはり最初の過去世での結婚に絡んでいます。

一言でいうなら、「奥さんの気持ちをもっと汲むことができたはず」というものです。

仕事ばかりに目を向けていた彼に対して奥さんは寂しいと感じていました。

彼を愛していたし、物静かな方だったので、文句は言わずに彼を支えていました。

ですので、彼はその環境を当然のごとく考えていたようです。

もちろん彼も奥さんのことは愛していたし、大切にしているつもりでした。

でも男女関係については、不器用な部分もあったのでしょう。

言葉で表現したり、ロマンチックになったりというのは少なかったようです。

全く知らないことや記憶にないことでも、相手にさせてしまった経験を

カルマと呼びます。すべての記憶は無意識に貯蔵されているからです。

そこが輪廻転生を繰り返してしまう理由でもあるのです。

このことにより愛情関係の重要さを今は身をもって感じているとも言えます。

カルマというのは、罰ではありません。

ただお互いに何かを経験する要因があるということなだけです。

誤解を恐れずに言うと、Uさんが結婚したい！という思いを抱けば抱くほど

寂しい気持ちを感じれば感じるほど、カルマは解消されていきます。

何かの罰ではありませんので、十分に今の不足感を受け入れてください。

最後のまとめのところで、早くカルマを解消する方法について書いておきます。

さて、ソウルメイトと過ごした過去世についてですが、40代後半か50歳ぐらいの

男性がUさんの過去世としてみえます。

時代は18世紀半ばごろ、場所は今のエジプトあたりかインドのあたりです。

彼はとてもお金持ちです。その奥さんがりさんのソウルメイトのようです。

奥さんはまだすごくあどけないお顔をしています。10代ではないでしょうか。

すごく歳が離れている結婚をしているからといって、嫌な感じはありません。

彼は奥さんをとても愛しており、ものすごく高価な物も惜しまずに与えています。

お金持ちなので、何人か奥さんらしき(側近のような)人はおり、

彼女が彼の最後の妻であり、正室であったようです。

奥さんも良い家柄のお嬢様です。両親は幸せになれる結婚として

彼に嫁がせたようです。ここでの幸せの定義は裕福ということになります。

すごく大切に育てられてきたので、ほんわりしている雰囲気をもっています。

言葉を悪く言えば、何も考えずに周囲の状況になすがままという感じです。

何かの主張もなく、かわいらしいお人形さんのような感じとも言えます。

でも彼は彼女を愛していたので、色々とお世話をしました。

親子、孫ほど違う年齢ですので、傍からみるとそのまんま孫娘みたいです。

彼女にとっても彼は大切な人ですが、保護者的な要素がたぶんにありました。

彼は彼女にお世話係のように尽くしていたので、時々少し疲れたというか、

物足りないような表情を浮かべることもありました。

過去世のリーディングはここまでです。

次に占星術の側面から今生のりさんを紐解いて見ましょう。

りさんのホロスコープは最後のページに載せてあります。

人生のテーマを表す太陽、ハウスを発展させる木星が8室にあることから、

神秘的なことへの興味が強く、また才能があることが示唆されています。

もしも今のお仕事が他者の人生に深く関わるような仕事ではないなら、

物足りなさを感じるのはごく自然な成り行きなってきます。

だからといっていきなり方向転換することも得策ではありません。

8室には遺産という意味もあります。これはご両親などの先祖から受け継ぐものを

指しているのですが、物質的なことばかりではなく、むしろ精神的なものが

大きいのです。例えば、親御さんや親族との間に何からの軋轢があれば、

ご自身に負の財産を取り込んでいるということも言えます。

そうすると、社会的な立ち位置を示す10室にも影響が及びます。

そのことも含めてですが、深層心理的なものを見ぬく才能は大きいので、

それを探求していくことはりさんの魂に満足感をもたらしていくはずです。

9室にPOFがあるのもスピリチュアル的な感性と心理や運命などの興味、

才能を示していますので、その方面を探求していかれたいのではないのでしょうか

8室にある太陽と11室にある土星がスクエアをとっているのですが、土星は

太陽の力を正しい方向に導こうとします。正しいというのは、りさんの場合、

太陽はおひつじのサインにあり、とても勢いがあるんです。今までその勢いで歩いてこられたと思います。それはある意味、周囲には凶器として作用していたこともあったかもしれません。それを諫める役割として土星があります。

11室は仲間や集団という意味がありますので、今の人間関係の苦しさは他者の思いをより深く汲むためのプロセスなもののようなのです。

太陽と土星のスクエアは性格的に結構ドライさを表すので、もしかしたらUさんが気づかないうちに傷ついた人もいたのかもしれませんが。

このプロセスは太陽にとっては筋トレみたいなものという側面もあるのです。ですので、そこから学ぶべきものを学んでいく意識を持つことができれば、人間関係の流れが変化していくでしょう。

最後にUさんのASCがおとめのサインにあり、おとめの守護星の水星がパートナーシップの7室にあります。Uさん自身が頭脳明晰で会話がはずむ相手を求めていると同時にそういう方とのご縁がありますので、知的な活動をしている交流会やサークルなどで人脈を広げるのも良い手段です。

ただ、結婚を頭で考えやすいことには注意するとよいです。

生涯をともにしたいというパートナーというのは、ハートが教えてくれるものですから頭で考えすぎないことも大切です。

以上でリーディングを終わります。

.....ま と め

■ 一つ目の過去世について

今生のお仕事などのことを勘案すると、概ねその部分については、

カルマ的なものは解消されているのではないのでしょうか。

誇りを持ってされてきたので、未消化の部分は昇華されていると感じられます。

ですから、今生は次のステップに歩を進めなくてはいけないわけなので、

それは物ごとの過渡期のように混乱が大きくなります。

この次のステップについては以下のまとめで触れていきます。

■ 二つ目の過去世について

一つ目の過去世での奥さんとのカルマについての昇華の仕方ですが、

寂しいとか結婚したいという不足感を意識的に感じる事が大切です。

意識的というのは、「なぜ自分には縁がないのか？」という理由を理解しながら、

寂しい思いや不足感を感じる事なのです。

寂しさや不足感というネガティブな感覚は、私たちは無意識に避けます。

感じないようにテレビや外にある何か興味を引かれることで、

気を紛らわせたりするのですが、それではカルマは中々昇華されません。

カルマというのは「お互いの、あるいは、自分の未消化の思い」ですので、

受け入れて初めて解消されていきます。

■ホロスコープについて

一つ目の過去世のまとめのところで触れた次のステップについてですが、ホロスコープのところでも述べていますが、ご自身の中にある才能を掘り起こす作業をしていくことが重要になっています。

もしかしたら今生ではその掘り起こし作業だけで終わるかもしれませんが、仕事や伝える立場に立つといった社会的なものへと繋がるかもしれませんが、どこに落ち着くかということについては、今は考えずに脇に置いておいて、ご自身が興味分野への探求をはじめていくのがよいです。

その中で様々な感性が磨かれることでカルマが落ちていき、出会いが運ばれてきます。そして少しずつ新しい道ができてくるはずですよ。その過程でりさんのソウルメイトに出会うはずですよ。

ホロスコープの最後のところで頭で考えることをやめることが大切といったのは、ハートの声に耳を傾け、つまり感性を育て、一步を踏み出すということです。

ASCと月がトラインなので、本来感情を大切にする方ですが、父親を表す4室に母親を表す月が入っているので、感情表現が苦手かもしれません。

月は水星とスクエアをとっています。このことから感性の育み方がソウルメイトとの出会いには大きく影響があるようです。

2019年7月15日

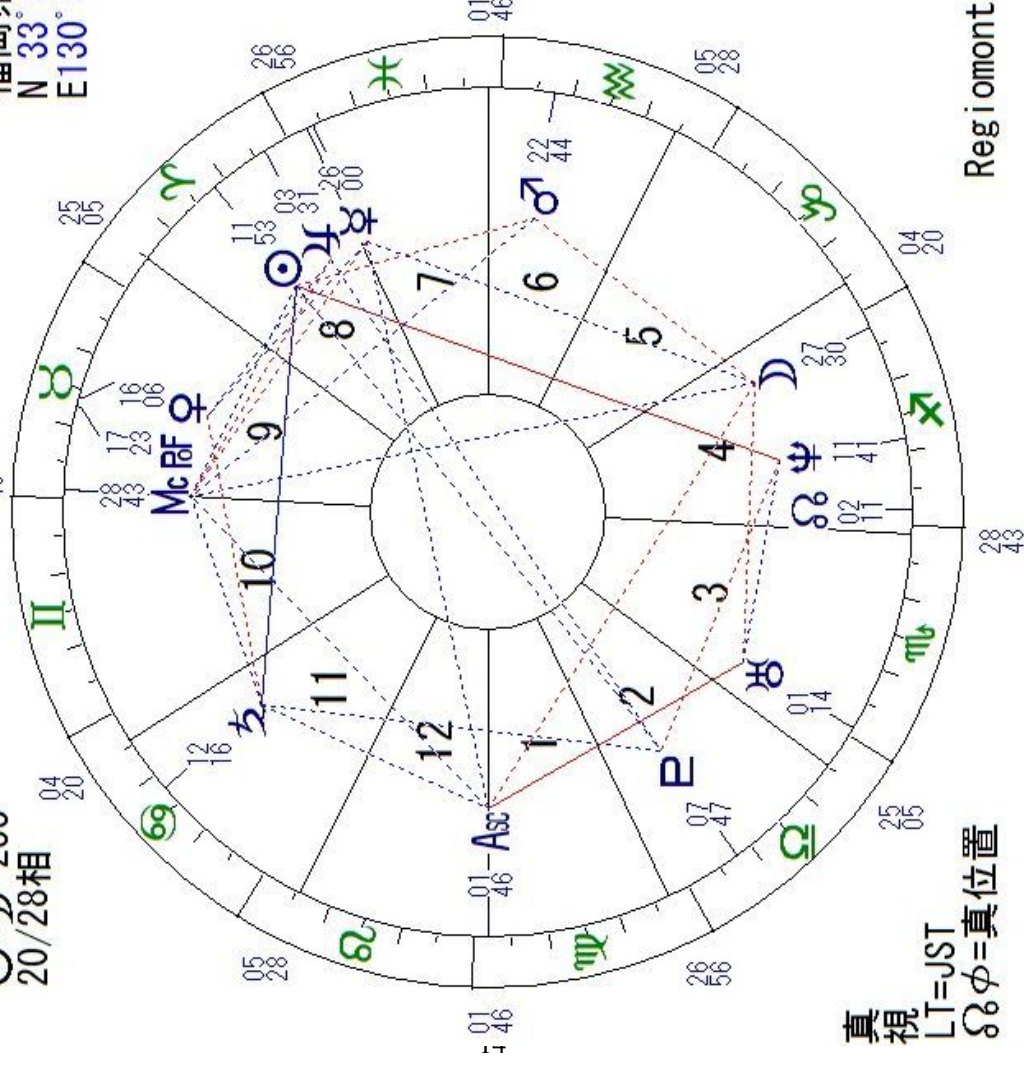
一つ目の過去世で展開されたカード



二つ目の過去世で展開されたカード



福岡県北九州市
 N 33° 31',
 E 130° 31'



黄経

11 11 53
 27 27 30
 26 26 00
 16 16 06
 22 22 44
 03 03 31
 12 12 16
 01 01 14
 11 11 41
 07 07 47
 01 01 46
 28 28 43
 17 17 23
 02 02 11

赤緯

+04.42'
 -21.13'
 -03.40'
 +17.19'
 -15.06'
 +00.24'
 +22.39'
 -11.22'
 -20.37'
 +12.49'
 +10.50'
 +19.52'
 +17.01'
 -20.36'

接近 1 種 W6.0 T1.0 2 種 W6.0 T1.0 P W6.0
 離反 1 種 W6.0 T1.0 2 種 W6.0 T1.0 P T1.0

真視
 LT=JST
 Ωφ=真位置

☉	☾	♁	♂	♃	♄	♅	♆	♇	♈	♉	♊	♋	♌	♍	♎	♏	♐	♑	♒	♓
Se	Se	♀	♂	♃	♄	♅	♆	♇	♈	♉	♊	♋	♌	♍	♎	♏	♐	♑	♒	♓